歴史と文教の城下町、高鍋探訪記。

本マップは、歴史と文教の城下町である高鍋町を皆様に知って頂くためのものです。

古代より高鍋に残る遺跡をもとに作成されたルート、
高鍋が発祥する以前からの逸話をもとに作成されたルート、
藩政が行われていた時代の史跡と文献をもとに作成されたルート、
すべて今の高鍋という町を築き上げてきた過程において、
とても重要な役割を持つ史実です。
その長い時間を皆様がこのルートを辿り、何かを感じて頂ければ至福の限りです。
多少の観光スポットも紹介させて頂いておりますが、
高鍋町ガイドブックと並行して御覧頂ければ、
尚一層高鍋町を堪能して頂けるのではないかと存知ます。

それでは早速出掛けて参りましょう。
悠久の時と浪漫を、皆様の探訪記に加えられることを願って。

高鍋湿原

高鍋防災ダムの工事により
表土を削り取られ、
そこに山林からの滴水により
創造された湿原である。
自然の偉大さを感じる場所だ。

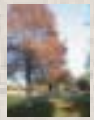
高鍋温泉　めいりんの湯

天然温泉であり、岩風呂と檜風呂がある。
この２種類の風呂は、
男湯と女湯で時期により交代する。
高鍋特産の緑茶を活かした茶風呂が珍しい。
地取れの特産物も販売されている。

オニバス自生地

高鍋町から木城町にかけて点在する。
鷺などの野鳥も多く生息し、
ゆったりと時間が流れているのを感じさせる。

ルピナスパークと農業大学校とは同じ敷地にある。
ルピナスパークの広大な敷地には小川も流れ、
親水公園としてもくつろげる空間だ。
国道沿いだが、敷地に入ると騒音も聞こえず
静かな雰囲気に包まれる。
ちょっとしたお土産を買うには楽しい物産館や、
レストハウスなどもある。



高鍋の偉人、その人。

高鍋町美術館には種茂公と鷹山公の像が、
中央公園には石井十次先生の像があります。
是非立ち寄ってみてください。
高鍋を育ててきた偉人達の想いが伝われば幸いです。

高鍋から輩出された偉人は御存知ですか？
有名なのは秋月藩第７代藩主秋月種茂公と、
社会福祉の先駆者石井十次先生です。

この二人の偉業ですが、
まずは秋月種茂公から御紹介しましょう。
種茂公は、藩財政の見直し・溜池や水路の築造・
産品作物や山林資源の開発、
また農民への児童手当や疫病対策として
朝鮮人参などの支給を行いました。
この時代に支給制度を用いた偉業は世界でも稀なことです。
そして、世を治めるための規律を正す優れた人材を育成するため、
藩校明倫堂を創設しました。現在の高鍋農業高校がその跡地です。
明倫の倫とは人間社会を表す“なかま”、
そして“なかま”の中で人それぞれが守らなければならない
“人の道”を指しています。
これを学び身につけ行動で表すことが明倫です。
また種茂公の弟は米沢藩第９代藩主上杉鷹山公であり、
ともに名君として名を馳せています。
種茂公と鷹山公はとても仲が良く、お互いに文通で藩政などの相談をし合っており、
鷹山公は「兄の才識は全の到底及ぶところに非ず」と尊敬し模範としていました。
鷹山公は兄種茂公と同様藩の建て直しに尽力し、藩校興譲館を創設しました。
鷹山公の偉業もまた、１１万両の借金を返済し５千万両の貯蓄を行ったことから
とても素晴らしいものだと分かります。

次に石井十次先生ですが、まだ福祉という概念もないような時代に孤児救済を行いました。
彼は藩校明倫堂の精神を受け継いだ島田小学校を卒業後、晩翠学舎に２年、
さらに１４歳の春東京の攻玉舎に通っていましたが、病気のため退学、郷里へ帰りました。
結婚後、医師を目指し岡山県甲種医学校に通い始めました。
明治１７年、新島襄の「同志社大学設立趣意書」を読み、今後の世での教育の重要さに思い至り、
郷里に人物養成のための教育会創立を決意しました。
同年夏帰省し、村人に熱心に訴え馬場原教育会を設立、「朝晩学校」を始めました。
昼は田畑で働き、朝夕の余暇に学ぶ、という意味からの名称です。
そしてまた、医学校卒業後診療所で働いていた際、
とある母子が自分の男の子を育てて欲しいと頼みに来たことがありました。
これが契機となり１８８９年岡山孤児院を設立し、孤児救済を生涯の仕事とするようになったのです。
日露戦争や東北の冷害による大飢饉などの影響で孤児が増え、
１９０８年茶臼原に孤児院を移転、１２００人もの大家族を支えていました。
その意志は、石井記念愛愛社に受け継がれています。
このように、良いことだと考えたことは即実行という石井十次先生の性格は、
生涯を通じて変わることはありませんでした。

高鍋町美術館

高鍋駅から約２ｋｍ。
車で約５分です。

藩校明倫堂跡地

高鍋駅から約２ｋｍ。
車で約５分です。

秋月種茂公の像

上杉鷹山公の像

中央公園

高鍋駅から約２ｋｍ。
車で約５分です。

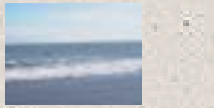
石井十次生家

高鍋駅から約５ｋｍ。
車で約１０分です。

石井十次先生の像

たかなべのむかしばなし　・・・お鶴が滝物語

昔、上永谷にお鶴さんという娘さんが住んでいました。
ある夏の晴れた日、お鶴さんは滝の上の岩場で洗濯をしていました。
ふとしたはずみに洗濯ものを流してしまい、それを追い掛けて お鶴さんも流されてしまいました。
村人たちはこれを聞いて、慌てて滝に駆けつけ、一生懸命お鶴さんを探しましたが、結局見つかりませんでした。
それから数日後、隣村の日置で息の絶えたお鶴さんが見つかりました。
日置の水神様の池と、永谷の滝はつながっていたのです。
それから上永谷の人々はお鶴さんを手厚く葬り、滝の上に水神様を祀る小さな祠を建てました。
それから、誰が言うともなく永谷の滝は“お鶴が滝”と呼ばれるようになりました。



蚊口浜海水浴場とサーフポイント。
四季を通じて訪れる人は多い。
ここで採れる牡蠣は有名。